

1 学 期 後 半		第3節 イスラーム	・ユダヤ教からイスラームに至るまでの一神教の発展について関心を高め、人間としての在り方生き方に関わる課題として意欲的に探究しようとしている。 ・イスラームとキリスト教の共通点・相違点を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・現代社会におけるイスラーム思想のもつ意義などに関する情報を様々なメディアを通して収集し、適切に選択して活用できる。 ・共同体の在り方や人間相互のつながりなど、イスラームにおける考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	○		○
		第4節 仏教	・仏教が誕生し、キリスト教やイスラームと同様に、広範囲に信者をもつ宗教として発展した経緯について関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・一神教との死生観の違いを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・ブッダの思想に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・苦や慈悲など仏教における考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	○	○	○
		第5節 中国思想	・社会形成に関わる課題の解決につながるものとして、中国思想のもつ意義を意欲的に探究しようとしている。 ・社会生活の在り方などに関する儒家思想と老荘思想の考え方の違いを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・中国思想を代表する先哲の思想に関する資料を収集し、適切に活用できる。			○
		第6節 宗教・芸術と人生	・人間についての見方など、儒家思想や老荘思想における考え方を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 ・社会形成に関わる課題の解決につながるものとして、中国思想のもつ意義を意欲的に探究しようとしている。 ・社会生活の在り方などに関する儒家思想と老荘思想の考え方の違いを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・中国思想を代表する先哲の思想に関する資料を収集し、適切に活用できる。	○		○
			・芸術家とその作品を手掛かりにして、人間としての在り方生き方について自覚を深め、意欲的に探究しようとしている。 ・自己の生き方に関わる課題と人生における芸術のもつ意義などを関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・芸術のもつ意義などに関する資料を様々なメディアを通して収集し、適切に活用できる。 ・芸術が問いかけているものを自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。			
2 学 期 前 半	第3章 国際社会に生きる日本人としての自覚	第1節 古代日本人の思想	・古代日本人に見られるものの見方・考え方の特徴を意欲的に探究しようとしている。 ・日本の風土との中で育まれてきたものの見方・考え方の意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・古代日本人の自然観・宗教観に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・古代日本の自然観・宗教観の特徴を理解し、その知識を身に付けている。	○		○
		第2節 日本の仏教思想	・日本において独自の発展をした仏教の特徴を意欲的に探究しようとしている。 ・日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・日本における仏教思想発展の意義を理解し、その知識を身に付けている。		○	○
		第3節 近世日本の思想	・近世日本における、儒教の受容の在り方と独自の思想が発展した経緯を意欲的に探究しようとしている。 ・近世日本の思想と社会形成との関わりを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・儒教を受容し、日本独自の思想として発展させる日本人の考え方に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・儒教の受容について、日本人に見られるものの見方・考え方とつなげて理解し、その知識を身に付けている。	○	○	

2 学 期 後 半	第3章 社会・世界と人間 としてのあり方 生き方	第4節 西洋思想の 受容と展開	・西洋思想の受容と日本の近代化との関わりに関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・日本の近代化における課題を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・西洋思想の受容に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・明治以降の近代化における思想の変遷を理解し、その知識を身に付けている。	○	○	
		第1節 人間の尊厳	・人間中心主義の思想の意義を意欲的に探究しようとしている。 ・西洋近代社会における人間観の変容を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・変化した人間観・宗教観が社会に与えた影響に関する資料を収集し、倫理的な見方や考え方を深めるために適切に活用できる。 ・人間中心主義の意義を理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	○	○	
		第2節 科学・技術と 人間	・近代自然科学誕生の積極的な意義を意欲的に探究しようとしている。 ・近代自然科学が発達した意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・経験論と合理論を唱えた先哲に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・自然と人間との関わり、科学技術の発達の意義や問題点を理解し、その知識を身に付けている。	○	○	
		第3節 民主社会と 自由の実現	・民主社会が形成されることの積極的な意義を意欲的に探究しようとしている。 ・「自由」の概念についてカントとヘーゲルの考え方を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・民主社会と自由の関係について言及した先哲に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・民主社会の基本原理や自由についての考え方を理解し、その知識を身に付けている。	○		
3 学 期	5章 自然や科学技術 にかかわる諸課 題と倫理	第4節 社会と個人	・個人と社会との調和の意義について関心を高め、意欲的に探究しようとしている。 ・個人の利益と社会の利益との関係を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・近代における社会観・個々の人間観の変遷に関する情報を収集し、適切に活用できる。 ・近代社会の問題点とその克服を目指そうとした思想を理解し、その知識を身に付けている。	○		
		第5節 近代的人間の 見直し	・近代における人間中心主義を見直すことの意義を意欲的に探究しようとしている。 ・近代の人間観と現代に生きる人間が直面する諸課題との関わりについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・近代の人間中心主義を批判した先哲に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・現代において近代の人間観が見直されてきた意義を理解し、その知識を身に付けている。	○	○	
		第6節 現代の暴力に 抗して	・自然や他者との連帯・共生を目指す思想や社会参加の意義を意欲的に探究しようとしている。 ・自然や他者と連帯・共生することの意義を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・自然や他者との連帯・共生を唱えた先哲に関する資料を収集し、適切に活用できる。 ・人間存在の意義を自然や他者との共生・社会参加と奉仕、自己実現と幸福といった観点から理解し、その知識を身に付けている。		○	
		第1節 生命の倫理	・現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげる意欲をもつとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について、主体的に探究しようとしている。 ・現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で表現している。 ・現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて探究することに役立つ情報を収集し、適切に活用できる。 ・現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	○	○	
		第2節 環境の倫理				
		第3節 家族の課題				
		第4節 地域社会の課題				
第5節 高度情報化 社会の課題						
	第6節 文化と宗教の 国際平和と 人類の福祉の 課題					
	第7節					
留意事項		公共、政治経済、地歴の内容と関連付けて学習すること。				

2025年度 地歴公民 科 年間授業計画表						
科目名	政治・経済		単位数	2	学年・類型	3年文系・選択
担当者		使用教科書	詳述政治・経済(実教出版)		副教材	最新図説政経（浜島書店）
科目の目標 (指導目標)	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨						
①知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)					
②思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したこととの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。(思考・判断・表現)					
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)					
評 価 方 法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト ② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等 ③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学 習 指 導 計 画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 前 半	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題	第1章 民主政治の基本原則	・ 民主政治の本質を世界のおもな政治体制と関連させて理解する。	○	○	
	第1編 現代日本の政治	第2章 日本国憲法基本的性格	・ 基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える。 ・ 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	○		○
1 学 期 後 半		第3章 日本の政治機構	・ 日本の国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習し、民主主義がどのように実現されているか理解するとともに、他の国の制度とくらべて今後の課題は何か考える。	○	○	
		第4章 現代日本の政治	・ 戦後政治の流れと日本の特徴、政党と選挙、行政機能の優位、世論の役割について学習し、日本の政治がかかえる問題について考える。	○	○	

2 学 期 前 半	第2編 現代日本の経済"	第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の 向上	・国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。 ・今日の経済を、企業、家計、政府の役割、市場による調整、世界経済における相互依存などの視点から理解する。 ・経済活動の特徴、資本主義経済の発達と変容、資本主義経済の特徴について学習し、経済活動の意義について考える。さらに、経済のグローバル化が生活に及ぼす影響について考える。	○		○
2 学 期 後 半	第2部 グローバル化する国際社会の諸 課題 第1章 現代の国際政治 第2章 現代の国際経済		・経済主体の役割、市場のしくみ、国民所得、経済成長、金融のしくみ、財政の役割を学習し、経済活動がどのように調整されているか考える。 ・日本経済の発達のながれ、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割について学習し、多様な課題にどのように取り組むべきか考える。 ・商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。	○		○
3 学 期	第3章 国際社会の諸課 題の探究		・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な知識を習得させる。 ・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめさせる。 ・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。	○	○	
留意事項		「倫理」「世界史」「日本史」の学習と関連する。				

2025年度 地歴公民 科 年間授業計画表							
科目名	公共演習		単位数	2	学年・類型	3年 文系	
担当者	使用教科書		『公共』（数研出版）		副教材	最新図説公共（浜島書店） 公共 整理ノート（数研出版）	
科目の目標 (指導目標)	・現代社会に対する問題意識を高め、さらに意欲的に迫及する能力を養う。 ・基本的事項に関する知識を身に付け、その知識を活用して現代の社会のしくみや人間についての特性など総合的に理解する。 ・問題演習などを活用しながら、現代社会に関する基本的な問題について考察する力の基礎を養う。						
評 価 の 観 点 と そ の 趣 旨							
①知識・技能	・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している ・諸資料から、倫理的主体等として活動するために必要となる情報を、適切かつ効果的に調べまとめている。						
②思考・判断・表現	・現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、諸事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 ・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを発信し、議論している。						
③主体的に学習に取り組む態度	・現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に入れて、主体的に取り組み解決しようとしている。						
評 価 方 法							
○個別の知識及び技能の習得状況について評価・・・定期テスト、課題レポート、小テスト ○思考力、判断力、表現力等の評価・・・論述式レポートの作成、プレゼンテーション、集団討議の観察、定期テスト・小テスト ○上記能力の習得にあたっての積極的な取り組みを評価・・・授業ノート・レポート、授業中の発言や行動の観察、生徒の自己評価や相互評価など							
学 習 指 導 計 画							
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの目標	評価の観点			
				①	②	③	
1 学 期 前 半	公共的な空間を作る私たち	1 青年期と自己形成	○青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。	○	○		
		2 人間としての自覚	○現代社会で生きる上で何が課題なのか、現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解します。				○
			○キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。	○	○		
			○自由についてのカントの道徳法則と人格、J.S.ミルの自由についての考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。	○	○		○
			○アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の思想の理解を手がかりに、社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について考察します。	○	○		○
		○丸山真男の考え方、「公」と「私」の捉え方などを手がかりに、ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し、そこにおける課題について考察します。			○		
1 学 期 後 半	公共的な空間における人間としてのあり方生き方	1 西洋近現代の思想	○行為選択の理由付けについて、目的論と義務論の考え方があることを理解します。	○	○		
			○目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解します。				○
			○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。	○	○		

		2 現代の諸課題と倫理	○義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解します。 ○社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解します。 ○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。 ○生命科学の進歩がもたらしたエンハンスメントとその倫理的課題について理解します。 ○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスメントについて考察し議論します。 ○人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題にかかわる思想や環境倫理について理解します。 ○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかかわる倫理的課題について考察し議論します。	○	○	○	○	○	○
2 学 期 前 半	公共的な空間における基本原理	1 民主社会の基本原則 2 日本社会の基本原則	○社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解します。 ○社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解します。 ○法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解します。 ○立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察します。 ○公共的な空間における基本原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解します。 ○政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現在の民主主義の課題について考察します。	○	○	○	○	○	○
2 学 期 後 半	現代の民主政治と政治参加の意義	1 日本の政治機構 2 政治参加と民主政治の課題	○三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解します。 ○政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察します。 ○内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解します。 ○国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。 ○地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察します。 ○政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解します。 ○有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察します。 ○民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解します。	○	○	○	○	○	○

			○民主政治における政党や利益集団の役割，政治資金にかかわる課題について考察します。 ○民主主義における世論の意義，メディアの世論への影響，インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解します。 ○世論形成に及ぼすメディアの役割，正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察します。	○	○	○
3 学 期	現代の経済社会 と経済活動のあ り方	1 経済のしくみと市 場経済	○経済活動の意義，経済主体と経済循環，グローバル化のなかの経済活動の動きについて，実際の経済事象とも関連させながら理解します。 ○経済循環について，例えば「家計」を中心にして，「政府」「企業」との関係を説明できるようにします。 ○市場経済における価格の働き，市場の失敗と政府の役割について，実際の経済事象とも関連させながら理解します。 ○市場メカニズムの意義と限界，政府の役割が求められることとの関係について考察します。	○	○	○
留意事項		自発的に学習に取り組むことを期待します。				